

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社YMFG ZONEプランニング

## 事業名称 1：しまキャン△プロジェクト

### あらすじ

周防大島町では人口減少問題に対応するための関係人口の増加や観光客が消費してくれる仕組みづくりが必要であり、島の魅力的な自然環境を生かしつつ、島の課題を解決し持続可能な観光業を実現するため、島の海と山を学ぶ「しまキャン△（周防大島エコキャン）」を実施する。この事業により、環境保全費用の確保及び関係人口の拡大等を目指す。

### ストーリー

周防大島町は、美しい二ホンアワサンゴの世界最大級の群生地となっており、それ以外にもきれいな海や星空といった自然環境が最大の魅力であるが、一方で観光客によるゴミ問題も発生している。そこで、環境保全について学ぶとともに、島の観光を楽しむツアーを地域の企業や島に暮らす人たちと共に実施し、大切な自然を守りつつ楽しみながら地域課題を解決することで、地域の活性化につなげる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	周防大島高校の「島じゅうキャンパス」の取組から環境・経済・社会の課題解決を目指すプロジェクトを創出し、ステークホルダーがそれを応援し事業化することで持続可能な地域づくりを目指す	今後の受け入れに向けて事業者、高校生との連携体制を構築していくことが必要。 クラウドファンディング造成に向けた具体的なリターン商品や、「しまキャン△」のコンテンツ造成に向けては高校生のアイデアだけでは不足している。  課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像  クラウドファンディング事業者、観光旅行事業者等
②課題	国内最大級の二ホンアワサンゴ群生地を保全する取り組みの促進、人口減少問題に対応するための関係人口の増加、観光客が消費してくれる仕組みづくり	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	島の魅力的な自然環境を生かしつつ、島の課題を解決し、持続可能な観光業を実現するため	
④地域資源	国内最大級の二ホンアワサンゴ群生地、地域での環境保全に向けた協力体制、瀬戸内海国立公園、食（みかん鍋、太刀魚の鏡盛り等）	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	エコツーリズムを通じて、島の海と山を学ぶ「しまキャン△（周防大島エコキャン）」を実施する。クリアカヤックを用いて、子どもでもアワサンゴを見られるようにすることで、家族連れ等にもアプローチする	
⑥担い手（Who）	周防大島高校、周防大島町、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会、サザンセット交通、マリッサリゾートサザンセット、（有）千鳥	
⑦事業で生じる循環	エコツアーの資金をクラウドファンディングで調達→実費分との差額についてはアワサンゴの環境保全に充当→環境が保全される＋クラウドファンディング支援者が関係性を持ち、島へ来訪する→リピーターの創出につながる	
⑧事業で生じる成果	交流人口の増加、観光消費額の拡大、自然環境の保全	

事業名称2：青春のアジ（魚釣り）プロジェクト

あらすじ

周防大島町では人口減少、特に若者の流出が著しく、島には遊漁船はある一方でデータ上は利用者が少ない状況である。加えて、釣り客によるゴミ問題で海が汚れてしまうという課題もあることから、①観光客等に向けて島の高校生や高齢者による釣り教室を実施、②釣りスポットにSNS映えするゴミ箱を設置、③特産品のみかんを活用した釣り餌を開発・提供することで、若者の流出（社会）・海洋汚染（環境）・特産品活用による誘客、消費拡大（経済）を目指す。

ストーリー

周防大島町の大きな観光資源の一つとして、綺麗な海とその海で体験する魚釣りがある。来訪する観光客数も増加傾向にあるため、資源を生かして更なる誘客を目指すことが必要と考えられる。一方で、釣り客による釣り糸の廃棄等のごみ問題や、地域の子どもが魚に触れる機会が少なくなってきたという課題もあるため、それらの課題を解決し、環境・経済・社会の3側面から循環する仕組みづくりを行う。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	周防大島高校の「島じゅうキャンパス」の取組から環境・経済・社会の課題解決を目指すプロジェクトを創出し、ステークホルダーがそれを応援し事業化することで持続可能な地域づくりを目指す	釣り教室開催に係るコストの把握、釣りスポットに設置するゴミ箱の調達方法、みかんを活用した釣り餌の開発に必要なコストやプロセスの把握
②課題	人口減少、特に若者の流出が著しい。また、島には遊漁船はある一方でデータ上は利用者が少ない状況で釣り客によるゴミ問題で海が汚れている状況	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域の人と共に、綺麗な海を守り、多くの人に島の良さを認識してもらうことで、若者の流出（社会）・海洋汚染（環境）・特産品活用による誘客、消費拡大（経済）を目指す	
④地域資源	綺麗な海、みかん、おしゃれなカフェや宿泊施設、景色が楽しめる公道、釣りスポットが多い、遊漁船	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	大きく3つのサービス提供を行う。①観光客や地域の子ども向けに島の高校生や高齢者による釣り教室を実施、②釣りスポットに高校生デザインSNS映えするゴミ箱を設置、③特産品のみかんを活用した釣り餌を開発・提供	
⑥担い手（Who）	仮：(株)サンライン、かめや釣り具	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	釣り教室により、子どもたちに周防大島の魅力を感じてもらい、将来近隣の市町村に転出した後も釣りをしに島に戻ってくる（ヒト）、島の遊漁船の新たな顧客開拓につながる（カネ）、特産品活用によるみかん関連商品のPR（モノ）	サンライン、かめや釣り具、地域の遊漁船事業者
⑧事業で生じる成果	交流人口の増加、観光消費額の拡大、自然環境の保全	

**事業名称 3 : みかんチップスプロジェクト**

あらすじ

周防大島町では人口減少とともに高齢化が進行。2010年から生産年齢人口が老年人口を下回り、現在人口の半数以上が65歳以上となる。高齢者の健康増進（咀嚼力強化・栄養価の高いお菓子の提供）と、開発するみかんチップスを周防大島の特産品としてPRし、観光客の誘客につなげる。

ストーリー

周防大島町の最も大きな課題の一つに人口の高齢化が挙げられる。高齢者は人口の半数を占めており、人口の流出等を防ぐ取り組みも必要となるが、今後は高齢者が元気に活躍出来る環境を整えることも必要と考えられる。その手段の一つとして、健康寿命の延伸に向けた新たなお菓子の開発を検討。周防大島町はみかん農家が全国で12番目に多い島であり、人口一人あたりの経営体数を見てみると、周防大島は全国で2位とみかん農家が占める割合がとて多い状況にあるが、和歌山と比較した際に周防大島町のみかんは知名度が相対的に低いということが課題であるため、みかんを活用した高齢者向けの咀嚼力強化・栄養価の高いお菓子を開発・PRすることで高齢者の活躍と認知度向上の両面から課題解決を図る。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	周防大島高校の「島じゅうキャンパス」の取組から環境・経済・社会の課題解決を目指すプロジェクトを創出し、ステークホルダーがそれを応援し事業化することで持続可能な地域づくりを目指す	みかんチップスの開発着手、開発に係るコストの把握、商品販売に向けた流通ルートの確保
②課題	人口減少とともに高齢化が進行。2010年から生産年齢人口が老年人口を下回り、現在人口の半数以上が65歳以上となる	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	高齢者の健康増進（咀嚼力強化・栄養価の高いお菓子の提供）と、開発するみかんチップスを周防大島の特産品としてPRし、観光客の誘客につなげる	
④地域資源	みかん	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	お年寄りも美味しく栄養の取れるお菓子「みかんチップス」を開発。地域の高齢者だけではなく、観光客にも販売する	
⑥担い手（Who）	仮：幸進堂（地域のお菓子屋）、お寺カフェ	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	みかんチップスにより高齢者の健康寿命延伸につなげ、地域で活躍する高齢者を増やす（ヒト）、みかかんチップスを筆頭に商品展開をし、その利益で高齢者施設を還元（カネ）、みかんを活用した特産品開発によりみかん消費量の拡大（モノ）	道の駅、高齢者施設
⑧事業で生じる成果	交流人口の増加、観光消費額の拡大、自然環境の保全、健康寿命の延伸	